

平成29年度(第72回)文化庁芸術祭受賞一覧(参加公演)

演劇部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) こまつ座	「きらめく星座」の成果
	(関西参加公演の部) くたいめ まつもと こうしろう 九代目 松本 幸四郎	「AMADEUS」における演技
優秀賞	(関東参加公演の部) 公益財団法人 武田太加志記念能楽振興財団	「関寺小町」の成果
	(関西参加公演の部) せんちく たかし 善竹 隆司	第23回 照の会「土蜘蛛 替間」における成果
新人賞	(関東参加公演の部) せと こうじ 瀬戸 康史	「関数ドミノ」における演技
	(関西参加公演の部) よこやま たくや 横山 拓也	「ハイツブリが飛ぶのを」の脚本

音楽部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) ぜんやう けいすけ 善養寺 恵介	「善養寺恵介 尺八演奏会」の成果
	(関西参加公演の部) 該当なし	—
優秀賞	(関東参加公演の部) 公益財団法人 ニッセイ文化振興財団	オペラ「ルサルカ」の成果
	(関西参加公演の部) おおさか こうきょうがくだん 大阪フィルハーモニー交響楽団	「第512回定期演奏会」の成果
	(関西参加公演の部) しげけんりつ げいじつげきじょう 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	歌劇「ノルマ」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) わかばやし 若林 かをり	「フルーティッシモ!〈vol.5〉」の成果
	(関西参加公演の部) すえひろ あやこ 末廣 亜矢子	「魔弾の射手」におけるエンピエンの成果

舞踊部門6件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) いしい ともこ 石井 智子	「石井智子スペイン舞踊団公演」の成果
	(関西参加公演の部) 該当なし	—
優秀賞	(関東参加公演の部) ほんま よしき 本間 祥公	「常花」の成果
	(関西参加公演の部) 一般社団法人 真松・浜田バレエ団	「創作リサイタル29」の成果
	(関西参加公演の部) にしかわ みつ 西川 充	「第24回西川充りさいたる」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) ふじた よしひろ 藤田 善宏	「ライトな兄弟」の成果
	(関西参加公演の部) おくむら ゆい 奥村 唯	地主薫バレエ団公演「トリプル・ビル」における演技

大衆芸能部門5件

区分	受賞者(団体)名	受賞対象
大賞	(関東参加公演の部) 該当なし	—
	(関西参加公演の部) 該当なし	—
優秀賞	(関東参加公演の部) まつお あつこ 松尾 敦子	「まんず聞いてからっしやい2017—松谷みよ子民話の世界」の成果
	(関西参加公演の部) しょうふくてい ぎんべい 笑福亭 銀瓶	「第7回 笑福亭銀瓶 独演会 in ビッコロ」における「景清」の成果
	(関西参加公演の部) はやしや そめじやく 林家 染雀	「そめじやくはれぶたいしほいばなし」の成果
新人賞	(関東参加公演の部) たまがわ たいふく 玉川 太福	「第1回 玉川太福月例木馬亭独演会」の成果
	(関西参加公演の部) かつらぶくまる 桂 福丸	「桂福丸独演会2017 大阪公演」の成果

テレビ・ドラマ部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象
大 賞	にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	とくしゅう くらら ほくさい むずめ 特集ドラマ「眩(くらら)～北斎の娘～」
優 秀 賞	にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	どよう かつめもつせき つま 土曜ドラマ「夏目漱石の妻」
	よみうり ほうそう 読売テレビ放送株式会社	スペシャルドラマ「愛を乞うひと」
	あさひ ほうそう 朝日放送株式会社	まくりつ しゅうねんきねん こおり わだち ABC創立65周年記念スペシャルドラマ「氷の轍」

テレビ・ドキュメンタリー部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象
大 賞	なごや ほうそう 名古屋テレビ放送株式会社	メ〜テレドキュメント「防衛フェリー ～民間船と戦争～」
優 秀 賞	株式会社 チューリップテレビ	「はりぼて 腐敗議会と記者たちの攻防」
	株式会社 毎日放送	映像'17「沖縄 さまよう木霊～基地反対運動の素顔」
	にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	NHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」

ラジオ部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象
大 賞	(ドキュメンタリーの部) 株式会社 CBCラジオ	なぐふんのいち ぐんぞう 「1/6の群像」
優 秀 賞	(ドラマの部) 株式会社 毎日放送	ラジオドラマ「びょうし かくいん 5拍子の福音」
	(ドラマの部) にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	FMシアター「ふゆ えいこう 冬の曳航」
	(ドキュメンタリーの部) にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	ラジオ特集「ドキュメント・原爆ドーム前」

レコード部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象
大 賞	わでんしゃ 一般社団法人 和傳社	まえ しやくはちやまとほうざんおんがく きせき 「冨 尺八 山本邦山(音楽の軌跡)」
優 秀 賞	キングレコード株式会社	おと とみせこうとうがっこうそうきよぶ 「この音とまれ! 時瀬高等学校箏曲部」
	有限会社 にっぽん 日本アコースティックレコーズ	さくひんぜんしゅう 「モーツァルト:ピアノとヴァイオリンのための作品全集」
	公益社団法人 にほんでんとうぶんかしんこうざいだん 日本伝統文化振興財団	たかはし すいしゅつきゅう しおりつくよみしょう 「高橋翠秋 胡弓の葉 月詠抄」

## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加公演)

## 演劇部門6件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	(関東参加公演の部) こまつ座	「きらめく星座」の成果	太平洋戦争前夜までの一年間を、東京・浅草の小さなレコード店一家を舞台に描いた井上ひさしの音楽劇である。栗山民也演出により主要キャストが再演、アンサンブルは抜群で「歌うことは生きること」「言葉を扱う発信者側と受信者側の責任」など井上が込めたメッセージはさらに深化し、優しく現代の私たちに訴えた。
	(関西参加公演の部) 九代目 松本 幸四郎	「AMADEUS」における演技	昭和57年の日本初演以来、アントニオ・サリエーリ役を演じ続けてきた松本幸四郎が、幸四郎を名乗る最後の年にも取り組んで、さらなる深化と洗練を感じさせる庄巻の演技を見せた。老境と壮年期を行き来する鮮やかな変化。天才モーツァルトへの燃えたぎる嫉妬。サリエーリの姿を通して、人間の業や矛盾を見事に浮かび上がらせた。賞賛すべき芸であった。
優秀賞	(関東参加公演の部) 公益財団法人 武田太加志記念能楽振興財団	「関寺小町」の成果	能の中でも最奥の秘曲「関寺小町」はあらゆる条件が調わないと上演は成功せず、出演者総員の責任はきわめて重い。今回のシテ・武田志房は初役だが、すべてにわたり丁寧な目配りを巡らせた後見・観世清和、地頭・梅若玄祥、大鼓・亀井忠雄や笛・藤田六郎兵衛、経験を積んだ優秀な人材が随所で相補うことにより大曲の趣意がおのずから明らかになった。「関寺小町」上演史に新たな1ページを加えた意義は大きい。
	(関西参加公演の部) 善竹 隆司	第23回 照の会「土蜘蛛 替間」における成果	化け物退治の能としての印象が強い「土蜘蛛」の間狂言を、大和朝廷成立以前の先住民が討伐された史実に目を向けるものとしたことで、歴史に葬られた敗者の立場を明確にした。面・装束や語りの補足等に留意して再演を重ねることで、さらに良くなると期待される。実験的な試みを敢行した「照の会」主宰・上田拓司の勇氣も買いたい。
新人賞	(関東参加公演の部) 瀬戸 康史	「関数ドミノ」における演技	どこにでもいそうな気さくな好青年に見えていた真壁が、物語が展開するにつれ、違う姿を見せだす。ナイーブそうではないながら、実は暗部を抱えた複雑な人物像を、もしかしたらどこかに存在するのではないかという現実感を出してうまく表現した。組み立ての緻密さと優れたセンスを感じさせられる演技であった。
	(関西参加公演の部) 横山 拓也	「ハイツブリが飛ぶのを」の脚本	自然の大惨事で、物も心も破壊された。孤立する人々を優しい嘘が繋ぎ、事実が切り離す。疲れた心が求めるのは虚か実か。会話の巧みなズレに笑いを担わせ、悲惨さに陥らせない。技巧の高さが示される。何気なく寄り添う人物描写が温かく、更なる作劇術の深まりを信じさせる。切なくて苦い救いを感じさせる優れた脚本であった。

## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭受賞一覧(参加公演)

## 音楽部門6件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	(関東参加公演の部) 善養寺 恵介	「善養寺恵介 尺八演奏会」の成果	歴史を尊重し、独自の工夫も交えて探究する姿勢が、特徴の異なる4作品の個々の魅力を存分に引き出した。全ての演奏の根底には、尺八を通して自己に向き合った虚無僧にも通じる深い精神性があり、その精神性が、豊かな表現力と高い技術力に結びついて、会場全体を包み込む深淵な響きとなった。特筆に値する密度の濃い演奏会であった。
	(関西参加公演の部) 該当なし	—	—
優 秀 賞	(関東参加公演の部) 公益財団法人 ニッセイ文化振興財団	オペラ「ルサルカ」の成果	ドヴォルザークの「ルサルカ」という上演機会の少ないオペラを積極的に取り上げ、作品の魅力を十分に示したことは高く評価される。中でも田崎尚美や清水華澄ら若手歌手の活躍が特筆される。山田和樹指揮の読売日本交響楽団がドラマティックで高水準の演奏であり、東京混声合唱団も美しかった。宮城聡は劇場空間を活かした演出であった。
	(関西参加公演の部) 大阪フィルハーモニー交響楽団	「第512回定期演奏会」の成果	エリシユカ得意のオール・ドヴォルザーク・プログラム。指揮者によってオーケストラはこれほど変われるという素晴らしい見本の演奏で、すべての楽器がクリアに鳴り響き、作曲家の民俗性よりも普遍的な緻密さをはっきりと聴かせた。「テ・デウム」における歌唱の弱さが残念だったが、「伝説曲」と「交響曲」は高く評価された。
	(関西参加公演の部) 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	歌劇「ノルマ」の成果	マリエッラ・デヴィーアら主役級3人をイタリアから招聘したことは、神話的なコラトゥーラと近代的な人間ドラマが拮抗する本作に見合う確かな判断であった。合唱を含む日本人歌手の、主役級と遜色ない歌唱は特筆に値する。巨木を間接光が柔らかく照らす象徴的な舞台美術は洗練されており、総合的な完成度が突出していた。
新 人 賞	(関東参加公演の部) 若林 かをり	「フルーティッシモ！〈vol.5〉」の成果	若林かをりは現代曲への果敢な挑戦を通じて、ファンタジー豊かな音楽を奏でてきた若手フルート奏者である。現代の独奏曲を特集する「フルーティッシモ！」を2015年に開始。今年度はイタリアのサルヴァトーレ・シャリーノの作品を取り上げ、特殊奏法を完璧に操りながら、繊細に変容する色彩を楽しませた。
	(関西参加公演の部) 末廣 亜矢子	「魔弾の射手」におけるエンヒェンの成果	関西二期会の「魔弾の射手」は合唱をうまく動かして生き生きとした舞台を実現していたが、主演者たちのディクションの問題などドイツ語オペラ上演としては課題も残るものであった。その中で光っていたのがエンヒェン役の末廣亜矢子で、役柄をよく理解した演技と共に、ドイツ語を歌うという点での達成を高く評価する。

## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭受賞一覧(参加公演)

## 舞踊部門6件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	(関東参加公演の部) いしい ともこ 石井 智子	「いしい ともこ ふようだんこうえん 石井智子スペイン舞踊団公演」の成果	出色は第2部「大地の歌」。本場の名手と舞踊団が一体になって多彩なスペイン舞踊を目くるめくように見せた。石井は魂の深遠を吐露するソロ、小気味よい足技など様々なタイプの踊りで高い実力を印象付けた。「百人一首」が題材の第1部「ちはやふる」では和楽器を取り入れたバンドが奏でる柔らかなリズムに乗り、独自のたおやかなフラメンコを見せた。様々な要素が融合されて温かな感動を呼んだ。
	(関西参加公演の部) 該当なし	—	—
優 秀 賞	(関東参加公演の部) ほんま よしき 本間 祥公	「とこほな 「常花」の成果	邦舞、洋舞それぞれの世界から気鋭の振付家2名を起用し、自らの新たな表現の可能性を問う真摯な姿勢が高く評価された。前半の「江口」では、凝縮された空間に濃密な情趣を湛え、後半の「恍惚」では、モノローグを巧みに取り入れながらしなやかに踊り、瑞々しい感性で枯れることのない永遠の美への憧れを描いた。
	(関西参加公演の部) 一般社団法人 きだまつ はまだ だん 貞松・浜田バレエ団	「さうさく 「創作リサイタル29」の成果	果敢に新作に挑戦した見応えある舞台。踊り手の個性を自然に引き出したコーラ・ボス・クルーセ振付「ENSŌ」、クラシック技術を活かしドラマティックに仕上げた貞松正一郎振付「Far and Away～遥か遠くへ」、人間の内面に深く切り込んだ森優貴振付「死の島 Die Toteninsel」、実力派女性達が踊ったイリ・キリアン振付「Falling Angels」。ダンサーとしても秀逸な堤悠輔のプロデュースカも評価したい。
	(関西参加公演の部) にしかわ みつ 西川 充	「にしかわみつ 「第24回西川充りさいたる」の成果	西川充は、長唄「新曲浦島」と清元「顔見世芸者」という曲趣の異なる二曲を踊り分け、実力を示した。「新曲浦島」は端正で品格のある踊りにスケール感もあり、顔見世見物に行く芸妓を歌舞伎の「吉田屋」などを織り込みながら綴った「顔見世芸者」は、扇を深編笠に見立てるなど振りのおもしろさを自分のものにし、楽しい作品として踊りこなした。
新 人 賞	(関東参加公演の部) ふじた もしひろ 藤田 善宏	「きょうだい 「ライトな兄弟」の成果	子供から大人まで歓声の絶えない、オリジナリティーあふれる舞台。歴史に残らぬ「ライトな兄弟」をモチーフに、ダンサーら8人がカラーブロックやソロバンなど、身近な道具を活用して踊り、観客の想像力をかきたてる。藤田善宏は振付家・ダンサー・デザイナーとして創作を主導。アイデアの柔軟さと多彩さに将来性を感じさせた。
	(関西参加公演の部) おくむら 唯 奥村 唯	「じぬしかある。 だんこうえん 地主薫バレエ団公演「トリブル・ビル」における演技	「シヨピニアーナ」でロマンティックなマズルカ役を愛らしく魅力的に演じ、「韃靼人の踊り」のチャガ役にはワイルドかつダイナミックに挑戦し魅力の幅を広げた。大きな振れ幅の二役に成長の跡が見られ、今後の飛躍を一層期待できる存在となった。

## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加公演)

## 大衆芸能部門5件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	(関東参加公演の部) 該当なし	—	—
	(関西参加公演の部) 該当なし	—	—
優 秀 賞	(関東参加公演の部)  まつお あつこ 松尾 敦子	「まんず <sup>ま</sup> 聞いてでけらっしゃい2017—松谷みよ子 <sup>まつたに こみんわ</sup> 民話の世界」の成果	山形弁による語り、松谷みよ子の民話の世界を見事に浮かび上がらせた。松尾の語りは、素朴で、情感があり、温もりを感じさせるというだけでなく、民話のもつ深い知恵や日本人の死生観といったものまで見据えた傑出したものであった。合間のフリートークも無駄がなく洗練されていたし、必要最小限の演出も語りをよく生かしていた。
	(関西参加公演の部)  しょうふくてい ぎんべい 笑福亭 銀瓶	「第7回 笑福亭銀瓶 独演会 in ピッコロ」における「景清」の成果	独演会では、緩急の効いた演出で弾けた「宿屋仇」と、情感をきっちり伝えた「景清」の2席を披露。特に「景清」は、視力を失った主人公の哀切ややるせなさ、やり場のない憤りを、自然体で巧みに表出。笑いもバランス良く織り交ぜながら、熱い心根や人の情を瑞々しい感性でドラマチックに描き出し、清廉な余韻を残した。
	(関西参加公演の部)  はやしや そめじやく 林家 染雀	「そめじやくはれぶたい しげいばなし」 「染雀晴舞台」芝居囃の世界の成果	音曲の素養を活かし、かつての寄席の楽しさを表現した。演じ手の少ない曲書きを「天神山」では披露。「柿ノ木金助」は歌舞伎の上演台本を手掛かりに、上方芝居囃の手法に則って、復活というより創作に近い形で甦らせた。また太夫を務めた「三曲万歳」では、現代風のアレンジも加えて、寄席の大喜利芸らしく賑やかに締めくくった。
新 人 賞	(関東参加公演の部)  たまがわ たいふく 玉川 太福	「第1回 玉川太福月例木馬亭独演会」の成果	自作の「地べたの二人」では、日常的会話を浪曲の表現でコミカルに、玉川のお家芸「天保水滸伝」では亡き師・玉川福太郎の十八番に挑み、故・国本武春に託された「大浦兼武」は、その際のエピソードから本編へ。観客の心を掴む表情豊かな芸風で、低音部の節の伸びやかさを補えたのは、曲師・玉川みね子の力が大きいことも要素である。持ちネタのバリエーションを意欲的に選び好演。次世代を担う気概を見せた。
	(関西参加公演の部)  きつら ぶくろ 桂 福丸	「桂福丸独演会2017 大阪公演」の成果	研鑽の成果に違いないが、これまでの印象を気持ちよく裏切る、芸歴11年目にしてどこか吹っ切れたような明るさで新境地を開いた独演会だった。巧みな人物描写によりネタの面白さを見事表現した「寝床」と、繰り返しの笑いで聴かせた「そば清」、「高尾」にはまだ工夫の余地があるものの、独演会全体の成果としては、今後の活躍を期待させるに十分である。

## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭賞受賞一覧(参加作品)

## テレビ・ドラマ部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	とくしゅう 特集ドラマ「眩(くらら)～北斎(はくさい)の娘(むすめ)～」	実に完成度の高い見事な作品である。無駄がなくクールな大森美香の脚本は素晴らしく、主演の宮崎あおいの秀逸な演技、対面芝居を極力排した加藤拓の演出と相俟って作品にリアリティを与えている。加えて、美術は勿論のこと、浮世絵、所作、言葉指導など、スタッフの仕事も称賛されるべきものだった。
優 秀 賞	にっぽんほうそうきょうかい 日本放送協会	どよう 土曜ドラマ「夏目漱石(なつめ せうせき)の妻(つま)」	壮絶な葛藤の先にある夫婦の愛を圧倒的な描写でとらえた秀作である。明治の文豪夫妻を描くが、夫婦の普遍を大いに感じさせる。家族に憧れつつも妻をうまく愛せない夫、夫の夢を一途に信じる妻。夫婦の機微をとらえる慈愛ある脚本、小気味よい演出、関係の緊張を伝える演技が揃い、細部への深い共感を誘う。
	よみうり 読売テレビ放送株式会社	スペシャルドラマ「愛(あい)を乞(こ)うひと」	戦後の混乱の中で、台湾籍の父親と日本人の母親の間に生まれ、父親の死後に壮絶な虐待を母親に受けた主人公が自身の出生や過去と向き合う話だが、映像的に虐待のシーンは重く、胸に迫る。その重さに対し後半、主人公が父親の遺骨をさがす過程を丁寧に描くことで、作品のバランスがうまく取れ、秀作となった。正反対のキャラクターを一人二役で演じ分けた篠原涼子の好演も光る。
	あさひ ほうそう 朝日放送株式会社	ABC創立65周年記念スペシャルドラマ「氷(こおり)の轍(わだち)」	厳寒の北海道・釧路を舞台に、幼い頃に生き別れた姉妹の血と業をめぐる哀しい物語を濃密に描き出した。二人の封印された過去が次第に解き明かされていく過程がスリリングかつ切ない。事件を追う主人公を演じた柴咲コウ、姉妹役の宮本信子・余貴美子の好演が物語に魂を吹き込んだ。往年の社会派ミステリーの系譜を継ぐ秀作である。

## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭受賞一覧(参加作品)

テレビ・ドキュメンタリー部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	なごや 名古屋テレビ放送株式会社	メ〜テレドキュメント「防衛フェリー ～民間船と戦争～」	戦車の輸送を担うために、民間フェリーの利用が防衛計画に組み込まれつつある。はたして民間船の安全は保証されるのか。番組は太平洋戦争時の漁船の徴用、湾岸戦争での貨物船のペルシャ湾派遣で民間船が戦闘に巻き込まれていた史実を伝える。防衛省などを丹念に取材し、防衛力拡充の動きを明らかにしている。
優 秀 賞	株式会社 チューリップテレビ	「はりぼて 腐敗議会と記者たちの攻防」	胸のすくような見事な追跡取材だ。情報公開請求を武器として、記者は領収書に隠された嘘を暴いていく。その姿が眩しい。繰り返し現れる「ドアが閉ざされる」映像は「隠べい」の暗喩として効果があった。エンディングはいかにも中途半端だが、それは意図的なもので、記者の追及がまだ終わらないことを暗示している。腐敗の間は深い。
	株式会社 毎日放送	映像'17「沖縄 さまよう木霊～基地反対運動の素顔」	沖縄県東村高江地区の集落を取り囲む形で、米軍のヘリパッド建設が進められ、地元住民反対派へのデマや誹謗中傷が、ネット空間や一部地上波テレビにまで広がった。取材チームは現場に何度も足を運び丁寧な取材でこの問題の全貌を描き出した。新たな時代のテレビ報道の役割を指し示しており、高く評価したい。
	日本放送協会	NHKスペシャル 「戦慄の記録 インパール」	太平洋戦争末期、豪雨のインド・ミャンマー国境地帯に投入された日本軍9万の将兵が無謀な上層部の独断専行の末、3万の戦病死者、4万の傷病者となる。世に言うインパール作戦を、イギリスで発掘された一次資料や膨大な映像、関係者による新たな証言を駆使して描いた衝撃の記録は、現代日本の組織にも通じる病巣を炙り出す。



## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭受賞一覧(参加作品)

## ラジオ部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	(ドキュメンタリーの部) 株式会社 CBCラジオ	ろくぶんのいち ぐんぞう 「1/6の群像」	困窮世帯の子どもを支援する名古屋市の塾への丹念な取材を通し、6人に1人の子が貧困状態という日本の闇を浮き彫りにした。重く響いたのがホームレス体験を持つ歌人・鳥居さんが心の叫びを詠んだ短歌の数々。貧困がもたらす教育の空白が当たり前の知識さえ奪い、負の連鎖を助長する現実言葉に言葉が失うことが多すぎた。
優 秀 賞	(ドラマの部) 株式会社 毎日放送	ラジオドラマ「5拍子の福音」	吃音に悩む24歳の女性を主人公とするラジオドラマを制作したチャレンジ精神を高く評価する。言葉の軽重が問われている現代社会に対し、大切なのは“伝える術”ではなく“伝えたい想い”であるというメッセージが共感を生む。主人公のセリフについては専門家の監修を受け、吃音で悩む聴取者に対する配慮もうかがえる。
	(ドラマの部) 日本放送協会	FMシアター「冬の曳航」	鎌倉時代の熊野を舞台に、捨て身で浄土に向けて渡海する僧と、その弟子の若者との心の交流を描く。いくつものエピソードが巧みに織り込まれ、ずしりと胸に響くドラマに仕上げられている。題材の意外性、脚本の力に加え、音楽と効果音の使い方も秀逸。紀州の海辺の光景が脳裏に広がり、ラジオドラマの可能性を感じさせてくれた。
	(ドキュメンタリーの部) 日本放送協会	ラジオ特集「ドキュメント・原爆ドーム前」	原爆ドーム前で11年間ほぼ毎日、被爆の実態を英語で伝えるボランティアガイドを続ける元英語教師の行動は、世界の誰かの行動を呼び起こし、“ヒロシマの思い”を拡散させて行く。その活動の原点となる“母と子の思い”，そして母国アメリカでヒロシマを伝え始めた“アメリカ人女性の思い”を丁寧に取材。たった一人から始まった行動が世界の人々の思いを動かし始めて行く様子を描き、心に迫り来るものがあった。

## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭受賞一覧(参加作品)

レコード部門4件

区 分	受賞者(団体)名	受賞対象	受賞理由
大 賞	一般社団法人 <small>わでんしゃ</small> 和傳社	<small>さえ しやくはら やまもとほうざん おんがく さいせき</small> 「冴 尺八 山本邦山<音楽の軌跡>」	2014年にこの世を去った山本邦山の膨大な録音をもとに、「伝統」「革新」「創造」「軽妙」「歷程」の5つの視点から幅広い活動の軌跡をたどる。傑出したテクニックと創造力で、尺八の可能性を飛躍的に上げた彼の演奏は、今なお鮮烈な輝きを放っている。深い敬意とともにその音楽を知悉したプロデューサーだからこそ為し得た記念碑的作品として高く評価できる。
優 秀 賞	キングレコード株式会社	<small>おと ときせ こうとう がくこうそう きょくぶ</small> 「この音とまれ! 時瀬高等学校箏曲部」	高校の箏曲部を舞台とする漫画から生まれたもので、若手実力者たちの演奏で原作に登場する楽曲を収録。バーチャル世界と現実とが交錯する企画は興味深い。作中から新たな創作曲が生まれ、演奏映像のネット配信を通して、現役高校生の部活動を刺激している。録音制作物の新たな価値の創出につながることに期待したい。
	<small>ゆうげんがいのしゃ にっぽん</small> 有限会社 日本アコースティックレコーズ	<small>さくひんぜんしゅう</small> 「モーツァルト:ピアノとヴァイオリンのための作品全集」	モーツァルトのピアノとヴァイオリンのためのソナタは、2つの楽器が対等に語り合い、協奏し、深みのある音楽世界を築いて行くという趣をもつ。漆原啓子の凛とした美しいヴァイオリン、それを豊かな表現力で支えるヤコブ・ロイシュナーのピアノは、このジャンルの価値を再確認させる見事な成果をこの6枚のディスクの中に示した。
	公益社団法人 <small>にほん でんとう ぶんか しんこうざいだん</small> 日本伝統文化振興財団	<small>たかはしあきしゅう こきゅう しおり つくよみしょう</small> 「高橋翠秋 胡弓の葉 月詠抄」	本CDは、本来が助奏楽器である胡弓の多様な表現力と魅力を、三曲と歌舞伎音楽から作品を選んで紹介した力作である。伝統的な作品に留まらず、尺八との二重奏や胡弓のみの三重奏といった新しい合奏の試みにも挑戦している。解説(英訳付き)は、最新の研究成果も反映し、学術的にも信頼のおける胡弓と胡弓音楽の紹介となっている。